

議 題 第44回篠山市総合計画審議会 会議録

日 時 平成21年12月18日(金)13時30分～

場 所 篠山市役所 第2庁舎

出席委員 山鳥嘉彦、上見重信、加藤哲夫、藤本光彦、柳本晃代、小森星児
横山宜致、石田成正、吉田栄治、藤本悦郎、西尾純一、堀江溢雄
團野和人

欠席委員 羽田登喜雄、西尾和磨、前川光子、山中信彦、並河達也

(敬称略)

1. 開 会

2. あいさつ

3. 審議事項

全体会・・・分科会に向けた共通理解

(1) 前回のふりかえり〔報告〕

(事務局) 前回会議録を説明

(2) 基本構想の骨格案について〔考え方の提示〕

(事務局) 資料1・資料2を説明

委員のみなさんからの意見をふまえ、事務局において整理を行った。内容についてご議論いただければと思う。

元気なささっ子愛プランによる人口推計を説明

県の調査よりも新しいので、できる限り新しいものを使いたい。ただし、県の調査と異なり、根拠となる人口を住民基本台帳と外国人登録人口を用いている。県は国勢調査の人口を用いている。使用するのであれば、違いがあることについて注意書きをするなど考慮する。

(委員) 人口フレームについて、前回の分科会で人口推計とする意見となっていたが、前回の審議会では目標とするか推計とするかは決定していなかったのではないかと。全体会で意見一致してから進めてほしい。

(会長) 分科会では、人口をここまでにするという目標を設定することは適切でないという結論に至り、全体会においても了解を得たのではないかと。

(委員) 全体会において報告を受けたが、全体会として結論が出たとは思っていない。

(事務局) 今回の分科会においても、再度議論を行うので、今回の意見を踏まえた上で、再度第2分科会で議論していただくことをご理解願う。

分科会

(1) 将来像・基本方向について(第1分科会)〔討議〕

全体会で討議結果を報告

(2) 人口・経済等のフレームについて(第2分科会)〔討議〕

全体会で討議結果を報告

全体会

(1) 基本構想の骨格案と市民アンケートについて(分科会の報告と共通理解)

・将来像・基本方向について(第1分科会)

(事務局)分科会討議結果を報告。

・「すみたいまち ささやま 新たな文化を育む ふるさと日本一 篠山市」について、「すみたいまちささやま」は、現総合計画の言葉を引き継いでいるのでどうかという意見があった。また、「住みたい町篠山」という漢字表記がいいのではないかと、という意見もあった。

「人と自然が調和した田園文化都市」は、「すみたいまちささやま」の説明のようなものであり、今回は「住みたいふるさと日本一をめざした篠山市」といったような、現状から変革していこうとしていることを表す言葉がいいのではないかと。

サブタイトルのテーマについては、これまでのものを引き継いだ変革であることを書ければいい、という意見があった。

また、ふるさとについては、山をふるさとと感じることが多く、山を大切にするという考えも必要なのではないかと。いいものを残すために持続的に行うための変革を表すようなものがいい。

・これから作る総合計画とこれまでの総合計画において、何が違うかを考えると、これまでの計画が到達人口を設けて、それを達成するための計画を実行し、目標人口が大変重要な項目であったことに対し、これからの計画は、ハード整備だけが目的ではなく、ハード・ソフトの双方を目的に計画を作っていくので、目標人口ではなく、人口見通しとしたうえで、計画策定することでいいのではないかと、という結論に至った。

・参画と協働において、19地域単位というのがあるが、旧村単位を考えるのも大切であるが、総合計画において19地域と書くことは必要か。

旧村を1つのまとまりとすることは大切であるが、19地域にこだわるのではなく、地域のまとまりを大切にすることを書けばいいのではないかと。

・篠山の変革については、今後のアンケートでも読みとっていく必要がある。変わるということについては、30年前の篠山をみると、交通事情も悪かったが、マラソンや観光にみられるように篠山は変わっているが、現状、人口などは限界にきており、これから更に変わっていく必要がある。

どのように変わっていくかが内容の核となっていくのではないか。

・体系については、案では5つの柱になっているが、「すみたいまちささやま」のあとにすぐに5つの柱をたてればいいのではないか。現総合計画の「タイトル 3本柱 6本柱」の時のような中間の3本柱は必要ないのではないか。

(委員) 将来像のふるさと日本一とは何を指すのだろうか。「新たな文化を育む ふるさと日本一」とあるが、ふるさとは新しい文化を生み出すものだろうか。ふるさとは、どちらかというと伝統を守っているイメージがあり、文化とふるさとという言葉をつなげるのは適切ではないのではないか。

(委員) 変革や改革という言葉を使うという議論をただで、どのような言葉を採用するかはこれからの議論である。

(委員) なぜ日本一の「一」にこだわるのか。どの町もが心で思っていることを表面に出すことはないのではないか。今は、多様性が重要であり、新しい文化を生むことについても、多様な人が交わることで新しい文化が生まれるので、昔に返ったような日本一にこだわるのはどうか。

ふるさと日本一よりは、一人一人の幸せを望むようなものが良いのではないか。多様性を無くし、日本一とするのはよくないのではないか。

それぞれの旧村(自然村)があって、その中にそれぞれのコミュニティがあり、補完性の原理が成り立っている。19地域にこだわらず、それぞれの単位のコミュニティが補完性の原理により、支えてあっていくというような表現でも説明ができるのではないか。

(会長) 私も、ふるさと日本一という言葉は、どうかと思うが皆さんはどう感じるか。「いちばん」という言葉についても、どうかと思う。

(委員) 言葉自体に抵抗はないが、この言葉自体を使うかどうかは議論できていない。分科会では、変革という内容を入れるべきであるということだけは決まった。

(委員) 「すみたいまち ささやま」は、分科会委員が全員賛同した。ふるさと日本一については、言葉自体は議論できていない。サブタイトルについては、「ささやまが変わる」という意見も出て、分科会委員みんなが共感していた。

(委員) ふるさと日本一は、再生計画で掲げられている言葉でもあり、目標

という捉え方をしたのみで、他の議論を進めていた。

(委員) ふるさとという言葉が好きで、ふるさと日本一という言葉も良いと感じていた。戦後、社会はふるさとを考えるとなく進んできたので、今ふるさとを振り返り大事にしたいという思いがある。

施策の大綱や基本方針の3本柱が不要であることは賛成である。但し、五本柱の再生計画どおりの言葉には疑問を感じる。

(委員) 「すみたいまち ささやま」にするために、どのようにしていこうとしているかが伝わるサブタイトルになれば良いのではないか。

(委員) 「すみたいまち ささやま」について、なぜ住みたいのかを説明することが必要である。そのようなことが分かる良い言葉があればいい。

(委員) 本日の審議会においては、問題提起ということでとどめておく。

・人口・経済等のフレームについて(第2分科会)

(事務局) 分科会討議結果を報告。以下のように意見が出された。

・努力する方向性を示す意味で人口目標を示すという思いももっともであるが、大きな目標とすることにより間違った方向に行ってしまう懸念がある。

・人口問題については、年齢別の人口構成、昼夜間人口割合、世帯数、質的な人口、地域的な人口について、第2分科会で検討していかなければならない。

・19地域のみとまりでまちづくりを進めていくことはいいが、現在の総合計画では5つの地区でのまちづくりを進めているので、なぜ19地域になったかを述べなければならない。

地域ごとに異なる問題が出てきており、それを解決するためには19の地域ごとに考えていくことが必要であることも述べなければならない。

・人口4万人といっても、その中でも生産力が重要である。そのような質の人口をいかに引き込むかが重要である。

農業が基幹産業であるので、人の質の面でも農協の担う役割は大きい。施設栽培をテスト的に行わせるような冒険的な施策も必要ではないか。儲かることを示すことができれば、他の人も同じようにしていくのではないか。

・市全体における農業所得の割合が2%程度にもかかわらず、基幹産業であるというのは難しく、今後伸びていくであろう環境や福祉部門をどうのばしていくかも重要な課題である。

・交流人口についても増やす必要があり、そのことについての議論も必要である。

(委員) 第2分会では、交流人口についてどのような議論がなされたのか。

(会長) 篠山の交流人口は多いほうではないかということと、交流人口が特定季節や土日に集中しており、バランスがとれていないのが実態で、バランスをとる必要があるのではないかと議論に止まっている。

(委員) 交流人口の増加に伴い、経済効果が上昇しているかを検証しなければならない。実際にはまったく上昇していないように感じる。

(委員) 交流人口増加のためにも、学生が増えるように教育を充実させることも重要である。

観光入込客数300万人と聞くとすごいと思うが、滞在時間をみると他の観光地と比べ短いのではないか。滞在時間を伸ばすための施策も必要ではないか。篠山は、お金を使う観光スタイルになっていないのではないか。このことについても検討してもらえたらと思う。

(委員) 城崎は、宿泊者数が減っており、今は日帰り客に注力している。観光は、世の中の状況に影響されやすい分野であり、よほど力を入れないと経済効果のある観光を持続させることは難しい。

(事務局) 第2分科会では、人口の中でも、交流人口にも着目しなければならず、交流人口も書いていかなければならないという議論を行っていた。おっしゃるような問題があるのも議論したうえで、課題提起として書かなければならないという議論を行った。

・骨格案全体

(事務局) 今回の意見を踏まえた上で修正し、再度審議会において提示する。

・市民アンケートについてについて

(事務局) 現段階としては、前回示したものに家族構成の項目を追加している。

(委員) 人口を目標にするか見通しにするかや、どう変革したらよいかなど、今議論していることをアンケートで聞いたほうがいいのではないか。

(事務局) 人口に関する項目については、前回総合計画策定時のアンケートからどのように変更するかを考えて、アンケートに取り入れる。

(委員) 「審議会において、このようなことを検討してありますが」というような聞き方で、篠山がどのように変わったらいいと思うかを聞くことで、審議会での議論にも活かせるのではないか。

- (委員) 変革を求める人と求めない人がいることを前提に質問をしなければならない。
- (委員) 伝統文化という言葉を出すと良い面もあるが、慣習や掟もある所に新しい住民が入る場合には、逆に作用することもある。そのようなところを変えるべきかどうかなどの議論も分科会で行っていた。
- (委員) 何を変えたらいいですか、というような自由記述のほうがいいのではないか。選択肢から選ばせることは、困難である。
- (委員) まちづくりへの関心については、実際にまちづくりに関することに参加したことがあるかないかを聞くことも必要なのではないか。
アンケートの目標回収率は、どれくらいを想定しているか。
- (事務局) 50%程度を想定している。

以上